

浜寺の森

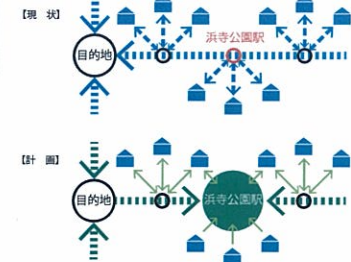
～人をつなげる駅づくり、まちをつなげる駅づくり～

浜寺公園駅が今の場所につくられてからおよそ一世紀。その間に駅をとりまく状況は変わり続けてきました。そして今、駅の高架化にともない新たな変化の時をむかえています。

この機にまちと駅をめぐる豊かな暮らしをみつめなおし、それを実現する舞台として新しい浜寺公園駅舎を提案したいと思います。かつてのように多くの人々が訪れるだけでなく、地域社会にとって主要な活動拠点となる空間づくりが不可欠です。人が訪れ、集まり、共に過ごし、さまざまなものを共有できる場所。人とまちと暮らしのありようをかえりみると、ひとつながりの森のような空間が思い浮かびます。そこにはなにかが息づいてとてもおどやかな音が聞こえてくるでしょう。

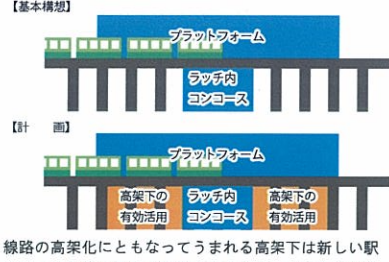


【1】駅に人を集める



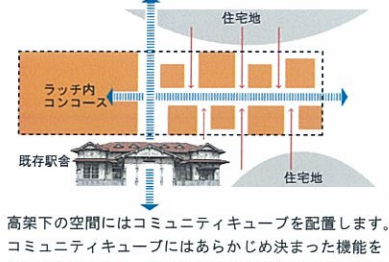
駅とは移動の上の通過点となる場所であり多くの人にとって目的地となることはありません。しかし、多くの人びとが訪れる駅は都市のアメニティを考える上で不可欠な場所であり、ここに駅そのものが目的地となるような魅力あふれる新しい駅を提案します。

【2】高架下をつかう



線路の高架化にともなうまれる高架下は新しい駅にとって非常に重要な空間となります。高架下の空間を活用する事例は近年よくみられますが、都市環境の整備という観点からも必然といえるでしょう。また、線路によって分断されていた臨海部と内陸部が直接的に結びつく場所でもあり、さまざまな有効活用が期待できます。

【3】コミュニティキューブをつくる



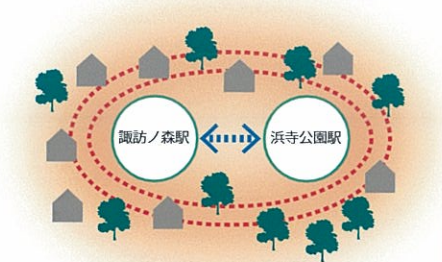
高架下の空間にはコミュニティキューブを配置します。コミュニティキューブにはあらかじめ決まった機能を与えるのではなく、利用者や住民の方々が様々な用途に使える空間として活用します。そのためにワークショップを通して、順次用途を決定する仕組みを提案します。このような新たな駅づくりは地域社会の活性化につながるだけでなく、駅と人びとを強く結びつけるきっかけにもなることでしょう。

【4】人と馴染む

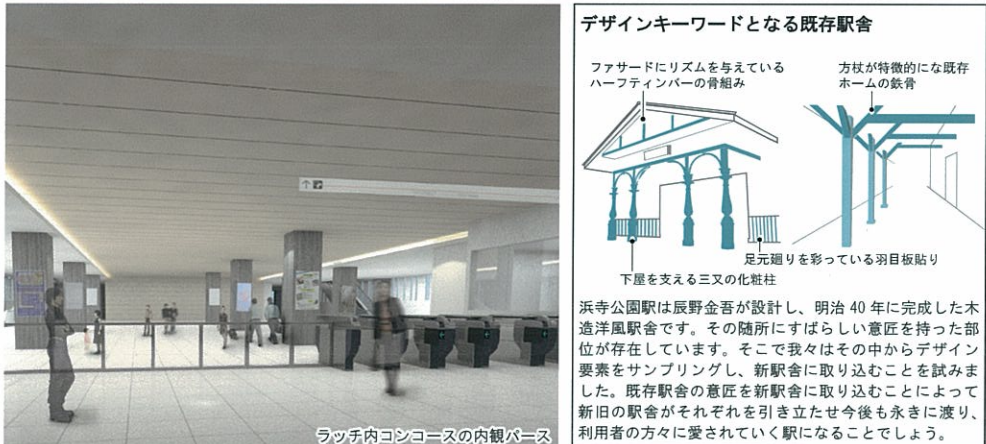


新しい駅には、訪れた人びとの足跡を残せるような機会や設えをもうけることがぞめます。自分の名前や印を残すことで、駅との親密な関係性を築く仕組みを提案します。「自分たちの駅」という感覚をもつことで、駅は空間的にも心理的にもより身近な場所となります。

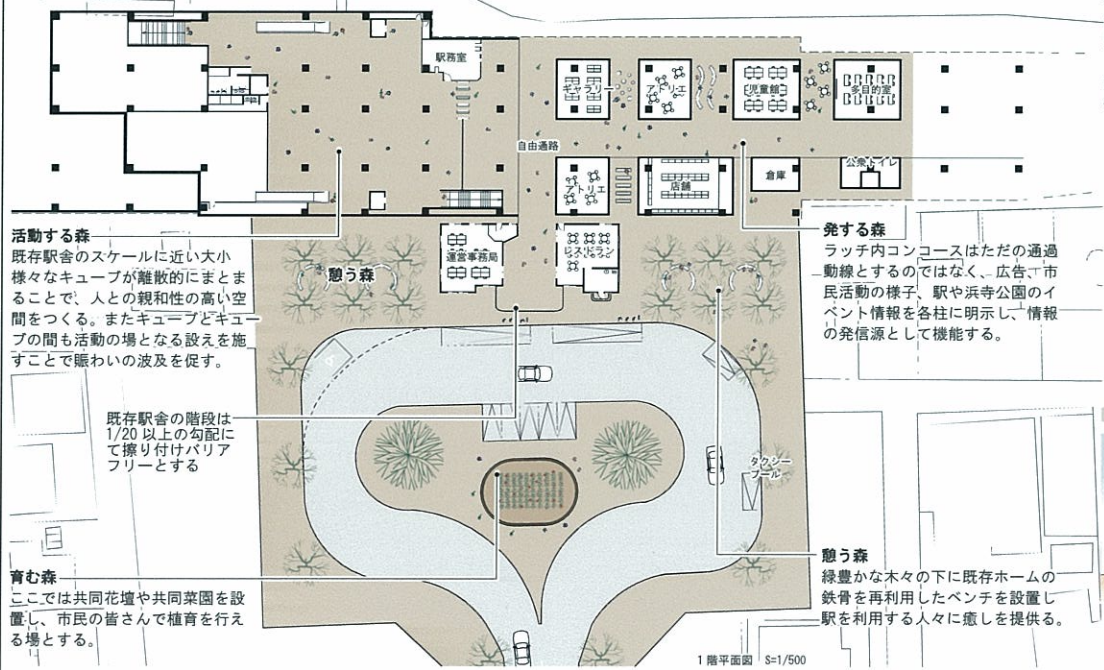
【5】まちにひろがる駅



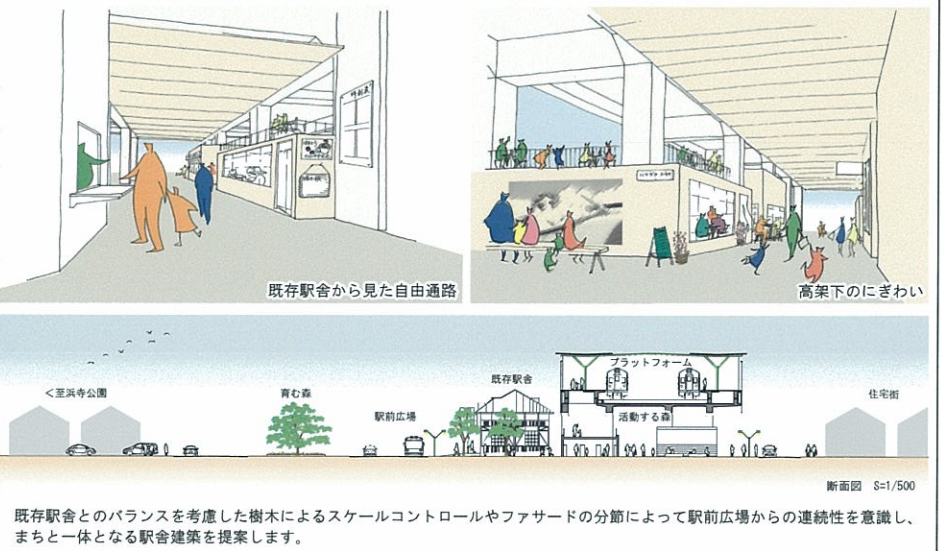
『駅が元気になることで街が元気になる』住民が関わる新しい駅づくりの形は、地域社会を活性化することにも繋がります。隣り合う二つの駅が新設され、双方ともこの新しい駅づくりを実践することでより強いアメニティの核を生み出すことができます。



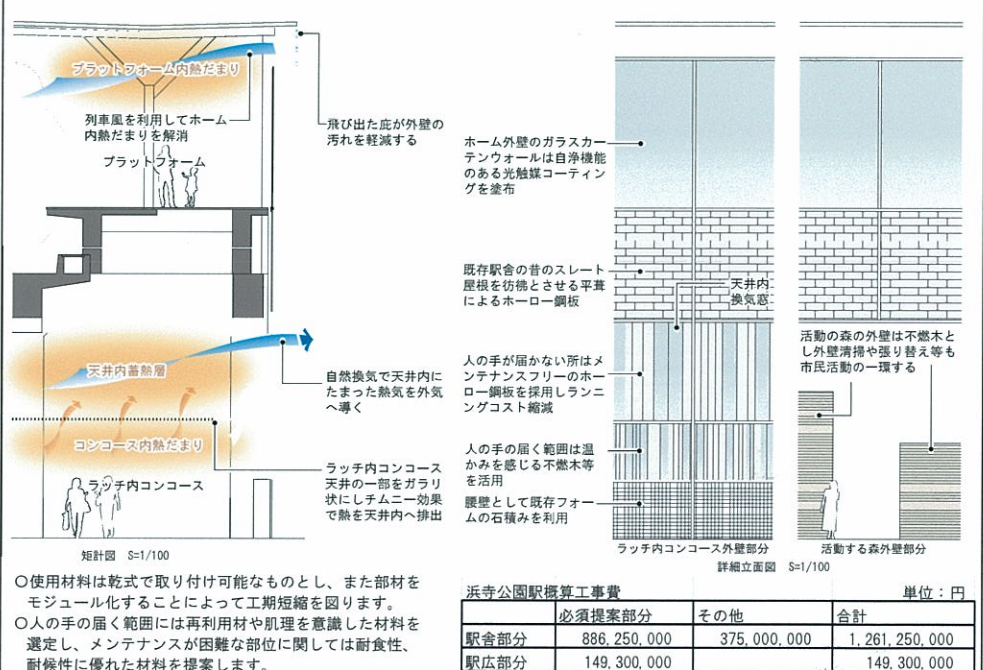
市民活動の舞台になる様々な森たち



駅を通過点としてでなく、目的地として市民の方々に活用していただくために私たちは様々なキャラクターを持った場を用意し、多様な市民ニーズに対応できる駅づくりを提案します。
○既存駅舎は改修を行い、コミュニティキューブのひとつとして生きた活用を図ります。
○既存駅舎の利用と合わせて多様なコミュニティキューブを高架上に設け、そこに集まる仕組みを重ねることで人々の賑わいを広げていきます。
○駅前広場には豊かな樹木と共にベンチ等のツールで憩える空間を設けます。
○それぞれの場所は床仕上げを統一し、サインによる的確な誘導を計画することにより駅全体としての一体感も同時に生み出します。



コスト低減や環境負荷低減を考慮した駅舎デザイン



浜寺公園駅概算工事費			単位: 円
	必須提案部分	その他	合計
駅舎部分	886,250,000	375,000,000	1,261,250,000
駅広部分	149,300,000		149,300,000